

研修コラム



コラム1 「普段の授業が大事」

今年度の指導案は略案としています。もちろん細案の方が細やかに児童生徒の実態や授業のねらいが深く理解できます。しかし、普段の授業づくりにつながることを優先して略案とし、ステップアップシートを用いて、毎時間の観点別記録を書くようにしています。

研修のための授業ではなく、日々の授業として実践的に行えるよう、よく考えられた授業を1つ行うよりも、より効果的で無理のない授業を続けられるかを優先します。

一人が一生懸命考えた授業を行うよりも、授業担当者全員で話し合っ作り上げた多くの授業を大事に検証していきます。

本研修の目的は、1つの授業を練り上げて行くよりも、教師全員が授業を考える効果的な習慣づくりを目指します。

図1「普段の授業が大事」



コラム2 「授業のねらいを明確に」

本校の研修のポイントに「育てたい力」の明確化があります。

授業内容一覧の作成時には、すべての児童生徒の「育てたい力」を明示します。キャリア発達を考える際には、将来に渡って「必要な力」(＝「育てたい力」)を具体的に想定することが大切です。授業を考える際には、教科等のねらいは？単元のねらいは？本時の授業のねらいは？導入時、展開時、終結時のねらいは？個別の指導計画の目標は？と考え

る必要があります。

大事なことは、授業のねらいが明確であることです。そして後で評価できるように具体的であることです。

また、児童生徒に達成して欲しい行動目標は、簡単すぎず、難しすぎないものが良いでしょう。ちょうどよく頑張っ達成できるものです。できるなら達成感や自信をもって欲しいものです。そうすると、達成率は80～90%の目標にするのが良いのではと思います。

ねらいの明確化、具体化、そして修正が必要です。

図2「授業のねらいを明確に」



育てたい力は何か

80～90%達成できる目標

- ・目標の具体化(評価できる目標)
- ・目標のスモールステップ化

コラム3 「4つの観点で評価」

本校の授業づくりでは、「①考える力」「②やってみる力」「③表現する力」「④興味をもつ力」の4つの共通の評価の観点を設定しています。この観点はキャリア教育や教科教育の観点とも重なりあっていますが、本校が研修を進める中で、やはり大事なことだと意見が多かった4つでもあります。

授業を評価する際に、特に特別支援教育では、「楽しく参加できました。」など抽象的な表現に止まることもあります。そうではなく、児童生徒の成長に必要と思われる4つの力という観点から、行動を見直します。そして、行動を傍観的に見るのではなく、周囲の環境や支援者の手だてとセットでとらえます。つまり、「〇〇という状況、手だてで、〇〇することができました。」という評価です。

基本は児童生徒個人への手だてと成長の評価です。さらに、同様の観点で、学習グループ全体の実態、学習グループや単元、年間の目標を検証します。そして、学校全体の児童生徒の実態や、全職員の支

援の傾向なども、共通する評価の観点を通して検証することで見てくると考えます。そうすることで、確かに有効な手だてや、足りない補充すべき観点も見えてくると考えます。

このように評価サイクルを重ねることで、スモールステップ的に、児童生徒が少しずつ力を身に付け、一方教員は検証を繰り返す中で、指導力を磨くことができるようになって欲しいと願います。

図3「4つの観点で具体的に評価」



コラム4「毎日続けるから早く終わる」

本校では、毎日の振り返りとして放課後、学習グループ担当者同士で授業について話し合っています。15:10~15:25に時間を設定し、他の会議は15:30~としています。短い時間ではありますが、設定されている時間に対し「忙しい・・・」「面倒・・・」と感ずてしまいます。しかし、話が始めると盛り上がり、時間オーバーすることも。基本的にみんな話すことが好きです。

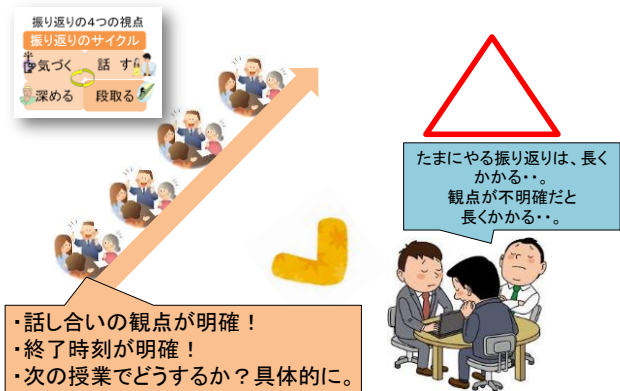
ポイントは、終了時間を守って、短時間で毎日行うことです。そして、一言でも全員が話すようにします。たまに行くと、長くなり「忙しい・・・」「面倒・・・」の気持ちが大きくなります。

振り返りの流れは「①話す②気づく③深める④段取る」として、記録用紙を準備しています。ポイントは「段取る」。次の授業に生きるようになるべく具体的に、「何を」「いつまで」「誰がする」と話します。

最後に、自分の経験から。振り返りをして、「やらなきゃよかった・・・」と思ったことはありません。数分であっても、必ず次の授業への参考になります。

毎日、少しずつ続けましょう！

図4「毎日続けるから早く終わる」



コラム5「児童生徒の自己評価とは？」

本校では教員の研修として、振り返りがキーワードになっています。これは児童生徒も同じです。児童生徒が授業を振り返り、「できた!」「楽しかった!」「またやりたい!」「こうすると良いんだな」と思っで欲しいです。この「達成感」と「目標、見通し」は、障がいに関係なくみんなに持たせることができると思います。

写真や動画、文章や話から以前あったことを思い出し、お話ししたり、絵に描いたり、作文にしたり、一緒に写真を見て笑顔を交わします。(ちょっと前の過去)

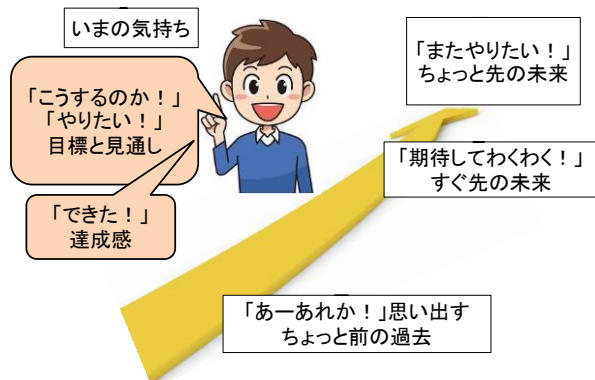
これから始まることについて、物の配置や写真カード、イラストやお話等で、理解し、見通しを持ち、期待してわくわくします。(すぐ先の未来)

いざ始まり、ドキドキしながら今の活動を一緒に楽しみます。出来上がった物を見て喜びを共有します。(今、現在)

次やりたいことを発表する、または自分からもう一度やろうとする、別の場面で自分から準備しているといた、またやりたいという意欲に繋がります。(ちょっと先の未来)

このような「目標と見通し」「達成感」をもたせる支援の繰り返し、児童生徒の意欲につながるようになり、児童生徒自身が自分のがんばりを振り返り、意欲や目的をもって学習を進めることができると考えます。

図5「児童生徒が振り返る」



コラム6「自分自身の問題として受け止める」

教育的実践に取り組む際、客観的に児童生徒の実態を把握することはもちろん必要なことです。しかし基本は実際にやりとりをすることです。そして、児童生徒の行動や思っていることを他人事と思わないことが大事だと思います。

同じ環境なら、自分自身はどう感じるだろうか？ どう行動するだろうか？ 目の前の子どもが戸惑っていることは、自分の生活ではどんな場面にあるだろうか？ 自分ならどう乗り越えるだろうか？ と想像することです。

また、児童生徒が学んでいる事柄や成長の過程を自分や人間ならみんなが直面する課題だと感じることです。「文字」ってこんなに便利で、こうやって学んだ。「悲しい」ってこんな感情で、こういう行動につながるんだ。自分もあるな、など。

このような意識が、児童生徒の気持ちに寄り添う、気持ちを代弁できることにつながり、実態にあった適切な手だてを考えることにもつながります。そして子どもたちとの信頼関係作りの基盤になると思います。

図6「自分自身の問題として受け止める」



コラム7「立派な教材よりも過程が大事」

本校では、例年教材教具の展示や教材教具集の作成を行い、教材のねらいを明確にしたり、使用場面の分類分けや、作成時のポイントなどをまとめていきます。

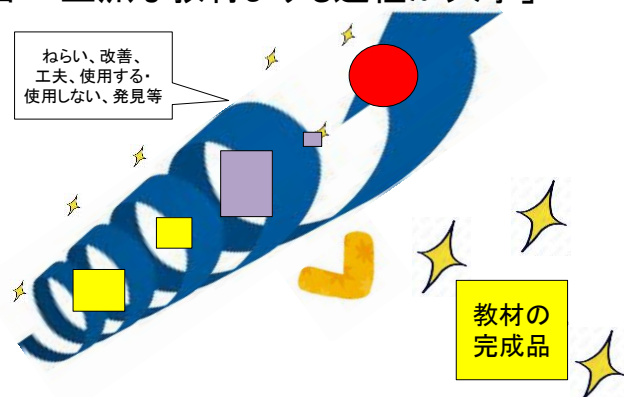
教材の提供には先生方にご協力を頂いています。

しかし、教材の完成品をひとつ紹介するよりも、教材づくりの過程を紹介することの方が参考になるのではと考えています。

「児童生徒がこんなことで困っているのが必要だ」というねらいの部分。「使ってみたら上手くいかず、こう変えた。それでも駄目で、こう変えた」という改善の部分。「市販のものだけど実態に合わせてこう変えた」「これまで使っていたけど、改めて考えて、こう変えた」などです。また、「教材を使っていたけど児童生徒の成長に伴い必要なくなった」、あるいは、「手だてを変えたら、必要なくなった」という例。また、「最初はA君に使っていたが、Bさんにも合っていた」という想定外の発見など。

これらのことはよくあることですし、大事なことです。このような一連の支援の変遷の一部でも紹介できればと思います。

図7「立派な教材よりも過程が大事」



コラム8「全体での取り組みとそれぞれの工夫」

校内研修を行う際、目的によって、全体と学部ごとで分けて実施しています。本校は全体といっても30名程度と少人数です。本校のメリットとして全体でまとまって研修を行えるということもあります。

全体会では、全員が集まって研修部から研修のねらいや進め方などを説明し全員で確認できます。協議はテーブルごとに、目的別に学部ごとに座ったり、学部混在で座ったりして意見交換し、その後発表して共有できます。

また、授業づくりの4つの観点や、授業改善チェックシートやステップアップシートなど共通のシートを使って授業作りを行っています。

実際の授業づくりは、主に学部ごとです。高等部は作業学習に取り組み、若人数が多いので、作業班ごとに授業づくりを行います。メンバーは、全学部7~10数名程度となり、意見を言いやすい人数で構成されていると思います。

また、毎週火曜日を研修の日とし、毎月一回を全体会または学部の研修日としています。それ以外の火曜日はフリーの研修日ですので、学部で自由に使えます。

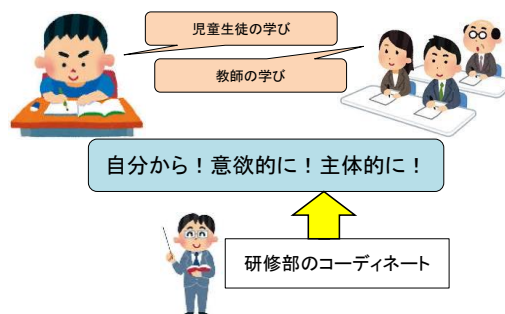
研修部のねらいとしては、全体で共通の目的と観点をもちながら、学部独自で研修を工夫して欲しいと考えています。学部の現状や目標を考慮しながら、思い付かないような工夫がどんどん出てくると良いなと思っています。

研修部として、全員に提出をお願いすることもあります。しかし、嫌々やらされる研修ほど辛いものはありません。

授業づくりで、決まった授業の枠組みはありますが、我々は児童生徒が自分で考えて、主体的に取り組むことを目指します。研修も同じです。研修の枠組みはありますが、教師がそれぞれ意欲的に、主体的に取り組むことをめざします。研修部として、「児童生徒」と「教師」の学びがスムーズに行われる研修を目指します。

全体、学部、個人としてそれぞれの研修がうまく機能するように、研修部が責任をもってコーディネートしなくてはと思います。

図8「児童生徒と教師の学び」



コラム9「やはり話すことが大事」

研究授業に向けての指導案作りや、チェックシート、ステップアップシートの作成などいろいろな研修をしていただいています。しかし一番大切なことは、「話すこと」だと思います。授業について話す、子供たちについて話す、自分の思っていることについて話すことです。

研修計画でも、毎日の振り返りの時間の設定や、研修主任と担任との話、事後検討会でのグループ協議と発表など、できるだけ全員が話す機会を設けようと考えています。

研修としてではなくとも、いつも子どもたちのことについて話している、明日の授業について話している学校になればと思います。

図9「やはり話すことが大事」

